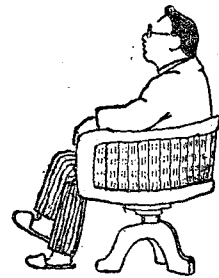


漫 録

道に對する要求

東京府立第六
高等女學校長

丸 山 丈 作



道ヲキレイニ

私は、大正十三年に、滿洲から北清地方を見た。大連でも、奉天でも、天津でも、上海でも、(支那町は別として)道がたいへんきれいであつた。それを見た目で、東京へ來て見ると、道がたいへんきたない。路面のそまつなことに加えて、たばこのあき箱、夏みかんの皮、紙くず、なわき

れ、魚の頭、時にはねずみの死がい、その他えたいの知れないごみなどが、そまつな路面にちらばつて居る。實にきたなく、むさくるしい。時には掃除のごみを道わきの溝にすてるのを見受けるし、たばこのあき箱を平氣で、道にすててゆく紳士、すいさしの巻たばこは道にすつべきものといはんばかりの人々。子供も果物の皮は平氣で道にすてれば、廣告などをもらえばたいの人は道にすててゆく。

これでは道がきれいにならぬ。私は、彼等は道をごみすて場と思つて居るのかといいたい。何とかして、道はもつときれいに、文明人の道らしくしたいものである。それには、道にごみをすてる者から、罰金をとる様にする事、道のところ／＼に、紙くすやごみをいれる箱をそなえるが、必要である。

伊豆を旅行して見ると、氣持のいい事が多い。その一つ、道わきの所々に箱をおいて、ガラス、茶わんかけ、その他人馬の足をいためる様な物を、入れることになつて居る。

道ヲワカリヤスク、親切ニ

地方をあるいて見ると、縣廳所在地の元標、師團司令部、兵營等からの距離を親切に書いてある所がある。青年團の仕事として、町村間の距離をくわしく記してある所がある。しかしない所もある。また、道の分かれめには、木か石を立て、道をしらせてある所も多い。これらも、所によつて一様でないが、全國至るところ一様にしたい。そしてそ

の距離には、必ずメートルを用い、道しらせの標には、東西南北を用いないで、必ず向つて右とか左りとかと、いふべきである。

伊豆を旅行して、ありがたいと思うことは、道ばたに箱をおいて、その中に、ひもなどをいれ、はきもの、緒のきれた方は、おつかい下さい、とかいてある事である。又、馬の飲み水をそなえたり、人に麥湯などをそなえてある所もある。かゝる親切な風は、前記のガラスなどを入れる箱のこゝと同じく、全國に普及させたいものである。

道ト自轉車

私は、自轉車にぶつかられたこと三度もある。小路から不意に出て來たり、後から來たりするのでから仕方がない。自轉車は便利な物で今日は非常に多く用いられて居るのだから、のる人は十分注意せねばならぬ。けがをさせたり、殺したりしてからはととりかえしがつかぬから。

自動車ト道

同僚和田君は、うしろから來た自動車にひかれて、殆ど死ぬところであつた。生徒にも、トラックにひきたおされ、けがしたものがあつた。けがする者、死ぬ者はしばしばある、端正な奥様が、頭から泥をかけられたり、美しい娘が着物から、顔や手足まで、泥まみれになるなども、めずらしくはない、前から後ろから、けたましくはしり來て、不安を感じしめ、土煙をあけて、しばしは息も困難な事は日常の事である。乗つて居る人の心ずかい、運轉手の苦勞も思いやられて、私の様な小膽者は、とても運轉手には、なれまいとさえ思われる。

箱根は自動車のために、はなはだわるくなつた。私は箱根がたいへんすきだ。しかし近頃の箱根はいやだ。きれいな空氣の中に、勝景をながめながら、悠々緩々たる氣分でのほり又は下る所に、箱根の味がある。前から後ろから、しつきりなしに來る自動車に、びく／＼しながら、あわた

ゝしい思いをし、頭から土ほこりをかむつて、どこによい所があるか、私は箱根のためには、自動車を走らせる事を禁すべしといふたい。あるけない人は、電車に乗るが、僅かな人のために、國の勝景を汚し、多くの人に迷惑をかけるのは、遠慮すべきであり、遠慮さすべきである。鹽原についても、同様に感じて居る、天下の名所は何處でも同じであらう。

今年高野山に登つたが、稚出からさきは、自動車専用の道が出來て居た。あれが、どこもそうなるべきだ。自動車のためなり、歩行者のためである東京の様な市街も、自動車専用道路を造るが、一ばんいゝが、さもなければ、自動車、馬車、人力車、歩道など區別すべきである。自動車の普及と共に、小路にも自動車をいれて、ほとんど人の通行ができぬ様なことは、はなはだわるい。あれは乗る人が遠慮して下りるが、少年が、道でボールなげなどするもの、もちろんわるい。

道ヲ無賃ニ

私は新潟縣から。東京に出た者であるが、始め出た頃は市川へ行くに、江戸川は渡船で、船賃をとられた。その時「信濃川には、四百五十間の萬代橋がかゝつて居て、ただ渡れるのに、この小さい江戸川には橋もなく、賃錢をとる、なんとやばんなことか」と思つたものである。今、江戸川には橋もかゝり、たゞで渡れるのはありがたいが、川口から岩淵へは、船橋で橋賃をとられる。白鬚橋の渡しも、賃錢をとる、多摩川でも矢口、丸子、二子、關戸、その他の渡しは、たいてい賃錢をとると堪う。帝都近くにこのありさま、不便といふほか、國家の體面を損する、恥かしい事である。せめて國內の道ぐらひは、無賃で通行のできる様に、したいものである。

道ヲ生産的ニ

道がよくなり、多くなるのは、誠にいゝが、耕地をつぶ

し、金の多くかゝるには困る。それで福田大將も「道路自ら生産せよ」とのべられたが、私の大賛成である。大將はサクランボを推奨せられたが、私はそれとあわせて楮をすゝめたい。それは大將の御説にもあるが、詳かに申したい。サクランボは並木として、路面又は側に楮は道を築き上げた傾斜地にうえるのである。私の郷里などの田は、たいてい傾斜地を段々にして作る故に、その畦畔には傾斜面ができる。それには田を作る時に楮の根を土の間にはさみ、それが年々成長して、年々收穫せられる。私は少年の時、これを經驗して居た時、常に道路の傾斜面をすてゝおくのを惜しいと思つた。楮はよく根の張る木だから、道の保存にも大に益があると思う。これを實行するには、果樹の様の面倒はない。それを獎勵すると同時に、篤志の農業者に、その傾斜面を貸し與へばすむのである。なお楮にかぎらず、桑も俵られ、野菜でいえば、うど、みょうが、ふきなども作られる、要は親切に工夫し、勉強するにある。

道ト經濟

道の延長、路面の改良等は、國民の經濟と比例がとれねばならぬ。滿洲の田舎には道といふべきものなく、見わたすかぎり、人家も見えぬ廣野の中を、どこでもかまわず、馬車をひいて居る、作物のある畑の中でも平氣である。低い所は道であり、川である、そして非常にわるい。故に一小車に四馬をつけるなど、はなはだ損の様である。併し、土地はいくらもあり、道として畑をあらず位は知れたもの非常に人口の少い所に、いゝ道を作れば、費用が多くて、使用は少く、はなはだ不經濟になる。むしろ道を作らず、畑を道とするのが經濟になるのかとも思う、天津、上海などは路面の舗装も出來て居て良いが、兩側の家は皆四五階である。そしてその割合に、道幅はせまい。則、人口に割當てた道の面積は、多くはないと思ふ。近來東京の道が、大によくなるはうれしい、併し二十四間、十五間等の道路が多く出來、木煉瓦、コンクリート等の舗装はいゝが、完

成できるか否、完成した上で維持ができるか否、私は大に疑うものである。市街の面積を今の様に、だたっぴろくしておいたのでは、水道でも、ガス管でも、電線でも皆長くなつて、不經濟であるから、なるべく市街を緊縮して、それらの費用をすくなくせねばなるまい、道路についても同様である。それを實行せねば、たゞ道路は良くして、それを維持しても、國民の力がその方に多く注がれて、他方には少くなり軽くなる。それでは國民の經濟、國民の活動が、ちんばにならざるを得ない。則、國民は道路といふ重荷を負わされて、活動が出來なくなる。かくては國民の活動に便せんとした道路の目的に矛盾する。道路の自殺だ、それ故私は道の開設改良も、大に經濟を考へて實施せねばならぬと考へるのである。

序ニ汽車中をキレイニ

鐵道も道路の一種と思つて一言する。わが國の汽車ではべんとう、果物などをたべた時に、からや皮や食い残しな

とを、腰かけの下に入れる事になつて居る。ながく乗つて居る汽車では、實にきたない、豚の様な状態である。折々ボーイが、水をまいて箒ではく、土埃はまい上る、まことにきたなく、不快であり、不衛生だ。何とか改良のできないものか。たとえばかごでもおいて、ごみはそれに入れ、一定の停車場で、からのかごと取りかえる様にでもしたら

いゝでないか。汽車は外國から學んで作つたものだから、外國でも同様だらうか、それともごみの始末だけは、學ばなかつたものか。私は外國歸りの人に尋ねても見るが、明瞭でない、當局の人が考えて居ない事はないと思うが、まだ名案がないのか、何にしても不愉快な不面目である。こんな未開の風は、一日もはやく、改めなくてはならぬ。

臺 灣 見 聞 記

××新聞記者 加藤 主 計

四

屏東は流石に亞熱帶圈にあるだけに南國氣分が旺盛し。

椰子とか、檳榔子とか云ふ熱帶植物が多く、初めて南國へ來たやうな氣がした、しかし何を云つても暑いのは閉口で太陽の光はチリ／＼と焼きつくやうに照りつける、油汗は

全身に流れる、全く燒熱地獄である。それでも見ると云ふ慾の皮がつつばつて居るものだから暑さを我慢して少し許り街を見て歩いた。

街と云つて製糖會社のお蔭で出來てるやうなものだから勿論取り立てゝ見るべきものはない。只暑い中を少々歩き廻つたから、此處で一寸市場のことを書いて置かう。